

河川利用に向けた地域連携の在り方に関する研究 大岡川桜棧橋の利用状況と管理体制に着目して

A study of the local community towards how to use a river

I pay my attention to the use situation and management of the Sakurasanbashi of Oooka river

○小松浩樹¹, 菅原遼², 畔柳昭雄³,

*Hiroki Komatsu¹, Ryo Sugahara², Akio Kuroyanagi³,

This is a study aimed at making us understand how the local community cooperates to use river by enclosing situation of utilization and management conditions of Sakurasambashi, the boat boarding area at the lower reaches of Oooka river in Yokohama. The Sakura pier is managed by the Kawanoeki steering committee and many communities between civic organizations exist.

1. はじめに

大岡川は、地域住民にとって身近な河川であり、横浜の中心市街地におけるシンボリック的意味合いを持ち、港町横浜の発展を支えた川である。大岡川の「川づくり」は、地域住民と関係機関等との協働により河川整備が推進されており、河川に関する情報を地域住民に提供する事によって河川と地域住民との連携を積極的に図り、NPO や地域住民の参加による川づくりの推進が努められている。

近年、大岡川は河口から中流域にかけてプロムナードが整備され、プロムナード沿いの桜並木は横浜の名所として毎年春季には多くの人々が訪れる場所となっている。また、下流部では有志の企画によるカヌーフェスティバルや小学校の総合的な学習の時間、地元町内会や商店街の有志による清掃等が行われている。今日、大岡川は多くの人々に利用され地域住民と川の係わりが新密度を増している。こうした大岡川の利用において、有効利用されているのが大岡川沿いに整備された各種、親水施設である。中でも大岡川桜棧橋は利用が頻繁で、地域住民との連携により運営が行われている。

そこで本稿では、大岡川下流域に整備されている桜棧橋を対象として、河川利用における桜棧橋の利用状況及び管理体制を把握することを目的とする。

2. 調査概要

調査概要を Figure 1 に示す。本研究では、横浜市を流れる大岡川下流域に整備されている大岡川桜棧橋を対象に、棧橋を管理運営する「川の駅」運営委員会、横浜川崎治水事務所を対象にヒアリング調査を実施した。桜棧橋の配置平面図を Figure2 に示す。

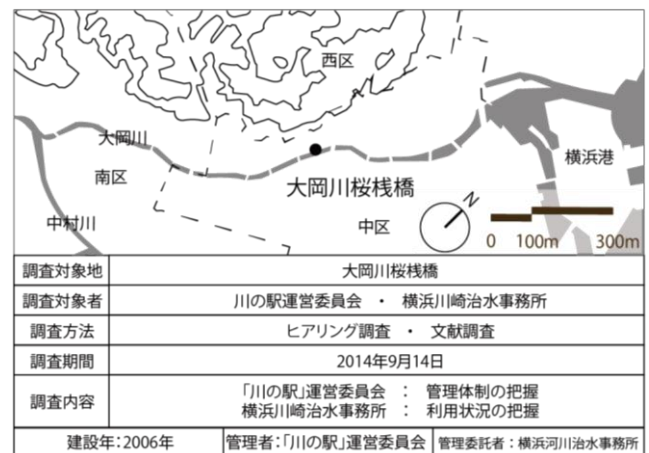


Figure1. Outline of Study

3. 大岡川桜棧橋の利用状況

大岡川桜棧橋の利用者数の推移は Figure3 に示す。これを見ると、平成 23・24 年度に比べ平成 25 年度の利用者数は約 4.7 倍増加しており、平成 25 年度の合計利用者数が吐出してることがわかる。また、棧橋は年々利用者が増加している事が見られ、この事から、棧橋の市民による認知が浸透している事がわかる。

4. 大岡川桜棧橋の変遷

大岡川桜棧橋の変遷を Table1 に示す。戦後 60 年間の黄金町地区では、非法な特殊飲食店が並び、赤線地帯が形成されていた。2005 年の浄化活動により、これらが一掃され、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会により棧橋の建設が提案された。建設に伴い「川の駅」関連準備委員会を開催し、後に「川の駅」運営委員会が設立された。桜棧橋の整備後は大岡川桜祭り、黄金町バザールなどで利用され、地域の人々の協力により季節に応じた様々なイベントが開催される。このように、レクリエーションの場として大岡川は利用される

1 : 日大理工・学部・海建 Nihon Univ. 2 : (株) 長谷工コーポレーション Haseko corporation

3 : 日大理工・教員・海建 Prof, CST, Nihon Univ, Dr.Eng

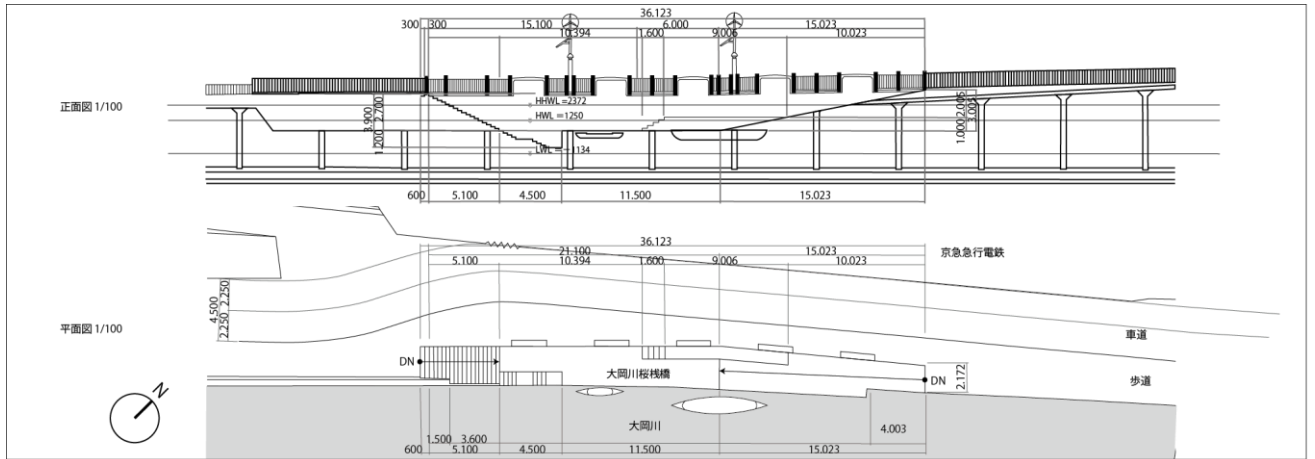


Figure2. Detailed drawing

ようになった。また、今日では、E ボートを使用して水上社会実験が行われている。これは将来的に観光・通勤の有効な手段として、水上交通の実現に向けた検討・整備を行う実験であり、地域の方と横浜市及び横浜川崎治水事務所によって行われている。このような様々なイベントや水上社会実験の多くは、市民団体が運営・関連しており、市民団体の活動による物が多く地域間の連携が見られる。^[2]

5. 管理体制

大岡川桜栈橋の運営管理の実施体制図を Figure4 に示す。大岡川の河川整備は横浜川崎治水事務所により総合的な保全と利用が図られており、そのうち、親水施設の事業は大岡川河川再生計画の一部として進められている。大岡川桜栈橋は「川の駅」運営委員会により運営管理が行われており、鍵の管理、利用調整、清掃を行っている。また栈橋の清掃は市民団体間で行われており団体間の連携が見られる。

6. おわりに

大岡川桜栈橋は市民団体である「川の駅」運営委員会による運営管理が行われており、市民団体間での連携が多く見られた。

今後は、大岡川に存在する他 2 つの栈橋を含め、大岡川桜栈橋がなぜ容易に栈橋利用が可能になっているかを明らかにしていこうと考える。

7. 参考文献

[1] 神奈川県：大岡川河川再生計画のあらまし,2012.
 [2] 大岡川 川の駅運営委員会 設立経緯
<https://sites.google.com/site/ookagawa/Home/nyusu/da-ga-ng-chuan-chuanno-yi-yun-ying-wei-yuan-huino-jing-wei>

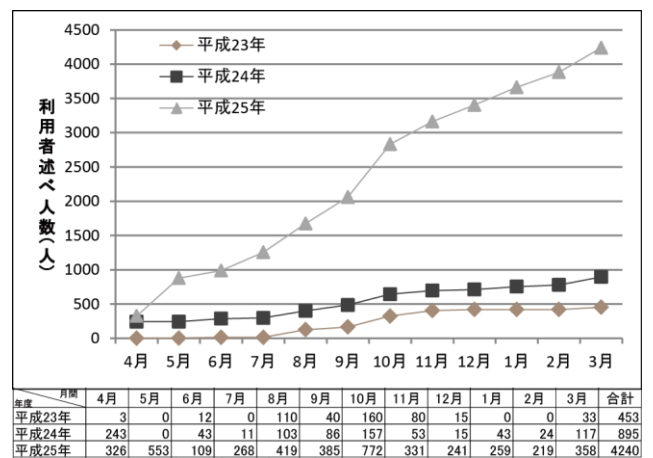


Figure3. The use number by year

Table1. History of a pier

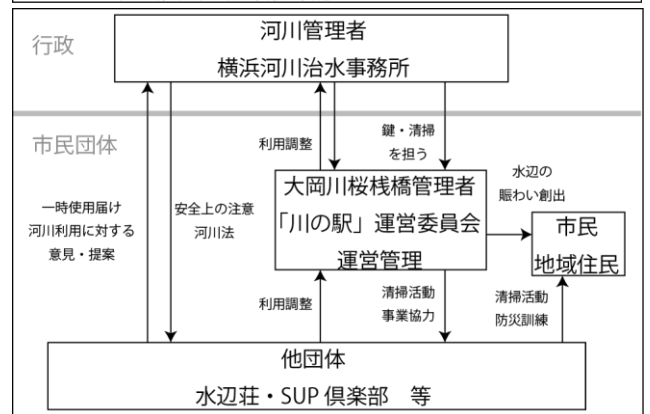
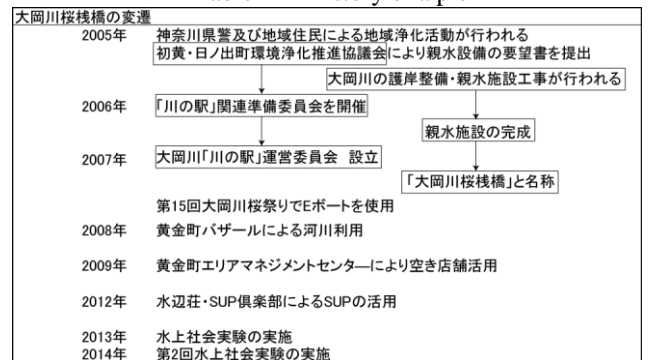


Figure4. Implementation structure figure